

ユビキタス時代の通信サービス
と電気通信番号の考え方
— 企業での利用面を中心に —

平成17年2月22日
日本電気株式会社

目次

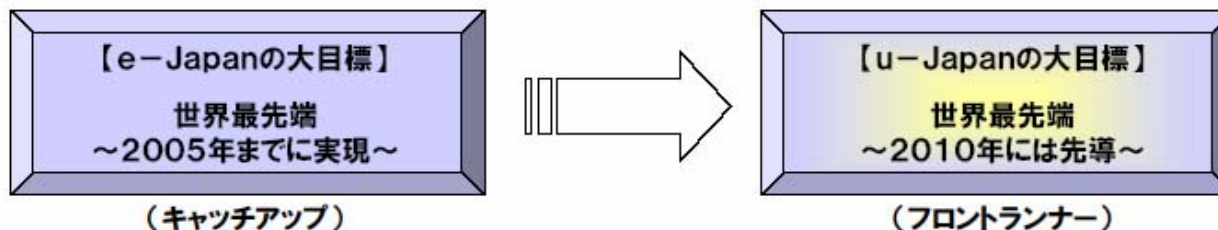
1. u-Japan政策とユビキタス社会
2. 弊社の取り組み例
3. ユビキタス時代の企業通信サービスの要求条件

1、u-Japan政策とユビキタス社会

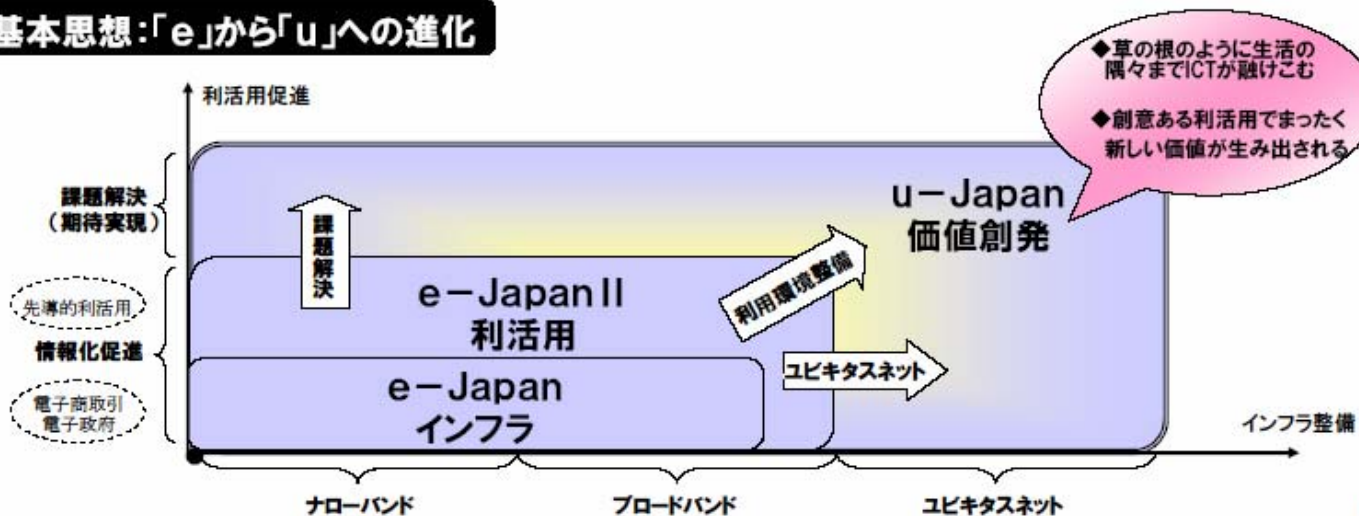
- e-Japanの大目標(2005年までに世界最先端のキャッチアップ)は達成
- 2010年にフロントランナーとなるのが次の大目標(u-Japan政策)

2010年に向けた構想としての骨格

大目標:フロントランナーとしての2010年の目標設定



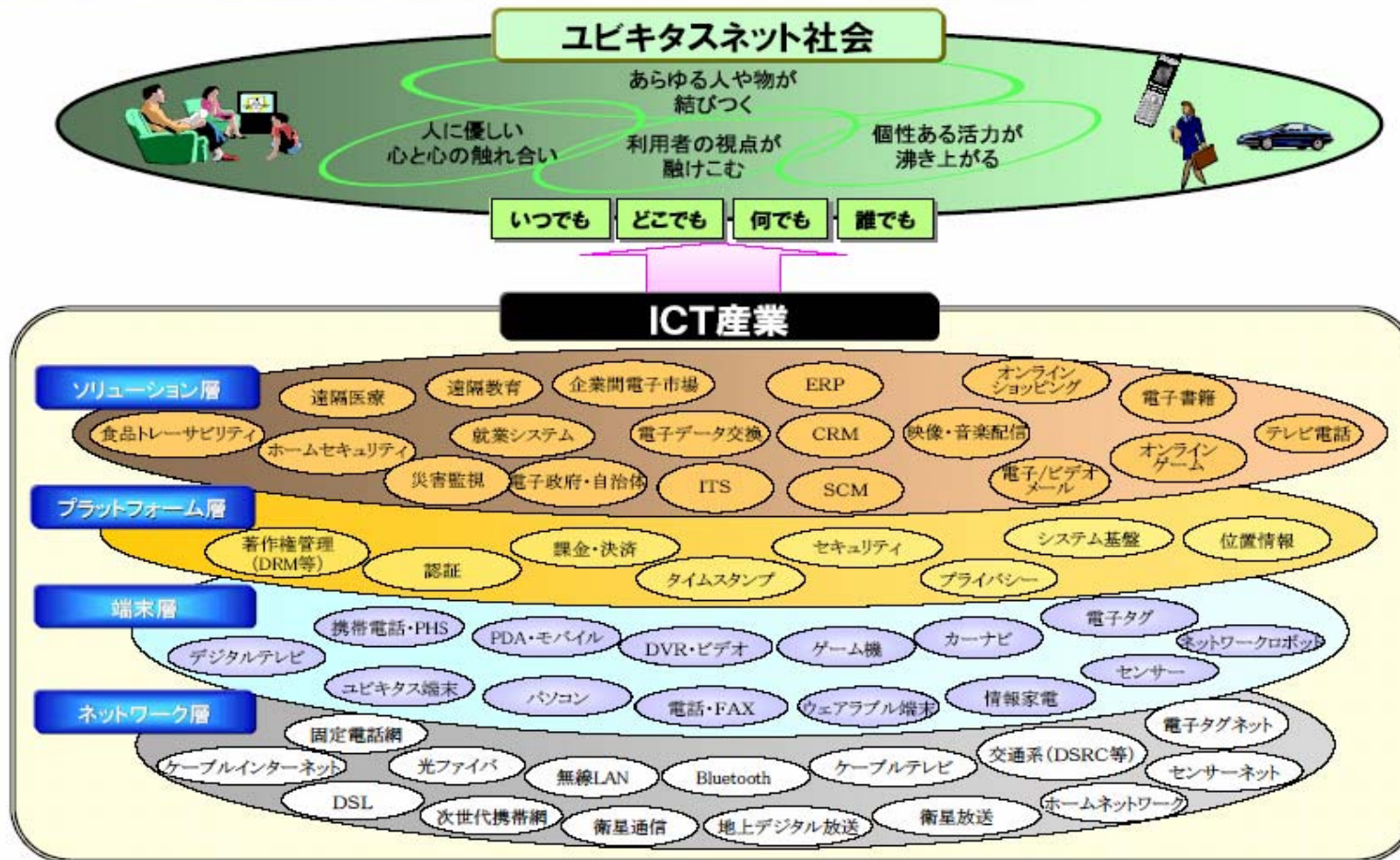
基本思想:「e」から「u」への進化



出展:「u-Japan政策」2004年12月 ユビキタスネット社会の実現に向けた政策懇談会より

1、u-Japan政策とユビキタス社会

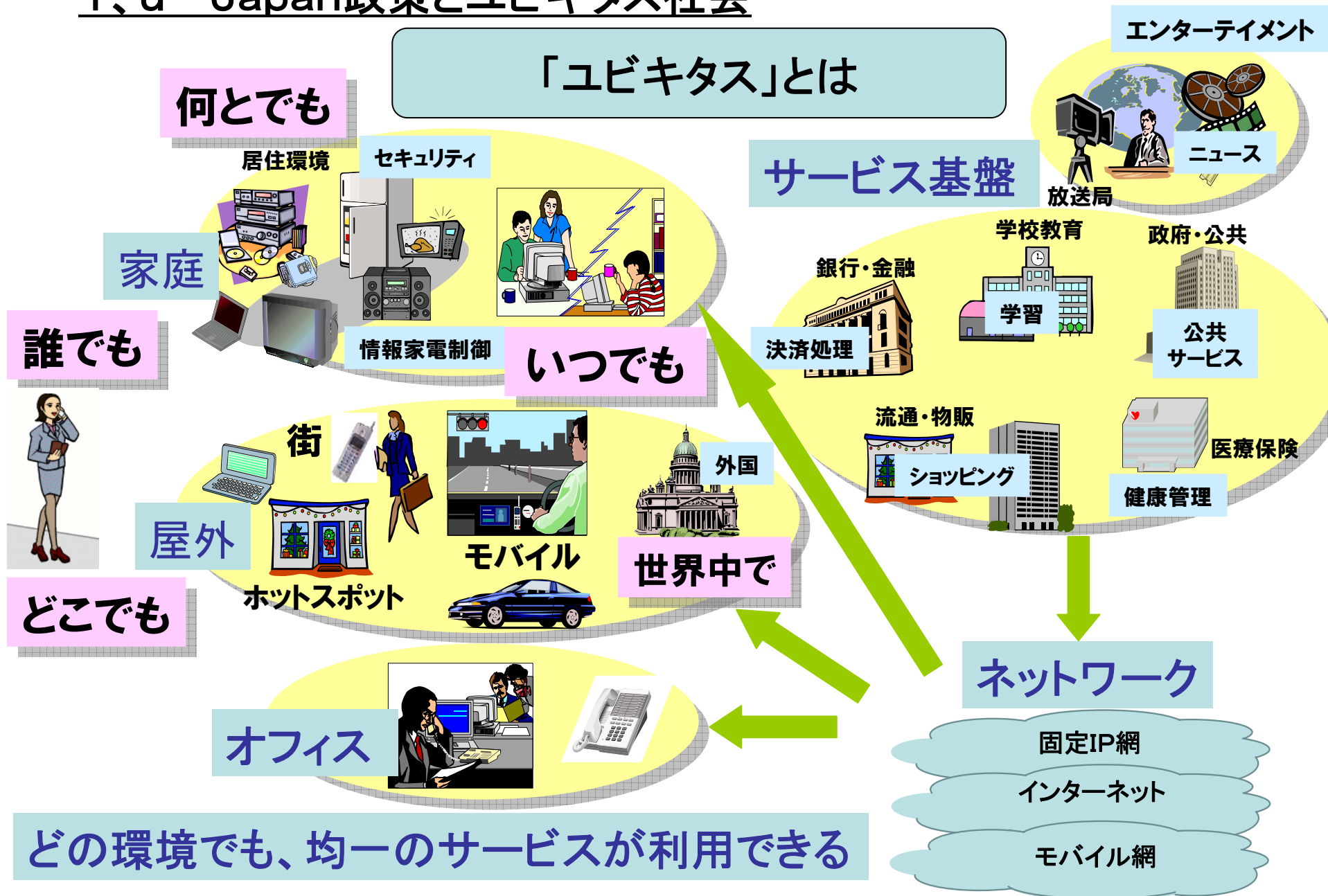
ユビキタスネット社会と情報通信インフラ



12

出展:「u-Japan政策」2004年12月 ユビキタスネット社会の実現に向けた政策懇談会より

1、u-Japan政策とユビキタス社会



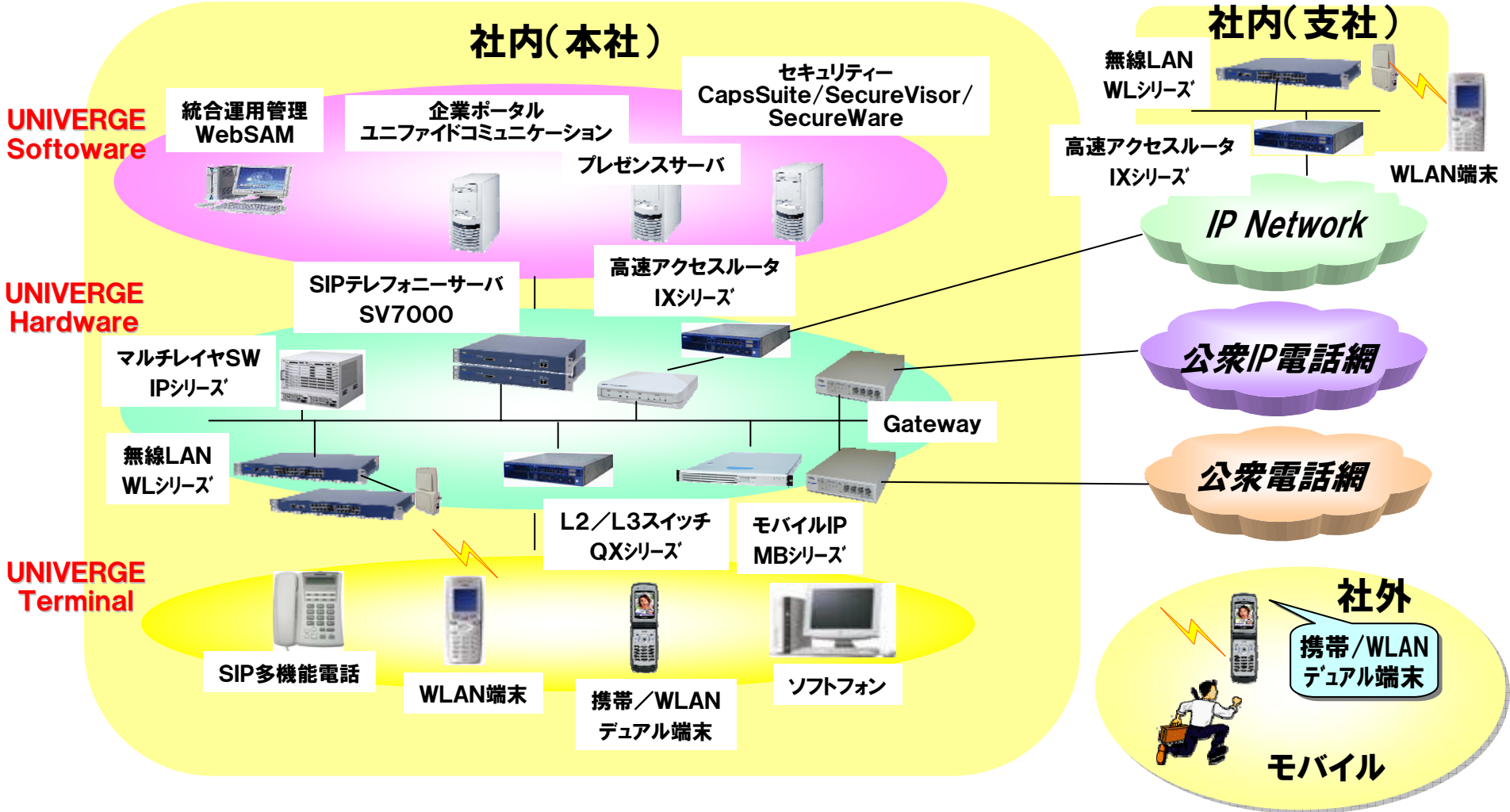
2、弊社の取り組み例

弊社では、以下の3点を目標に、企業内ユビキタスの実現に向けて取り組み中です。

- 1) 本社、支社、拠点、自宅でのサービスの同一性
- 2) IT／ネットワークの融合サービスとネットワークセキュリティの強化
- 3) 肥大化する通信ネットワークマネジメントの簡素化

弊社のユビキタスネットワーク導入事例

「高性能」、「高信頼」なプラットフォーム製品群を提供



端末1台で、企業情報ポータルから「いつでもどこでも」 各種コミュニケーションが可能

- どこからでも使える : パソコン、携帯電話、ブラウザフォンいずれからでも、外出先や自宅から、オフィスと同じ電話、グループウェア、ボイスメッセージ、Web会議などが使える
- シングルサインオン : ポータルから各サービスへ自動ログインが可能
- パーソナライズ : ワークスタイルに合わせたポータル画面を、利用者自ら作成
- ユーザ情報一元管理 : アプリケーション、コンピュータ、ネットワークのユーザ情報を統合管理

企業情報ポータル (StarOffice21、BusinessPortal)

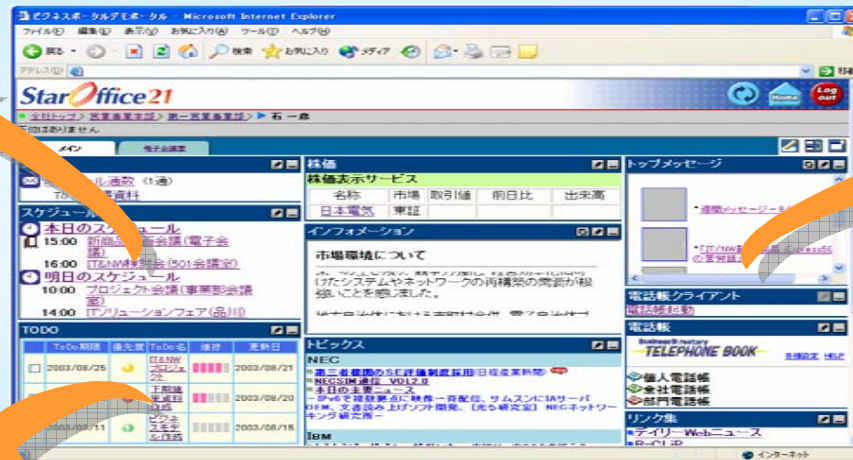
グループウェア
(StarOffice21など)

電子電話帳
(StarOffice21/電子電話帳)

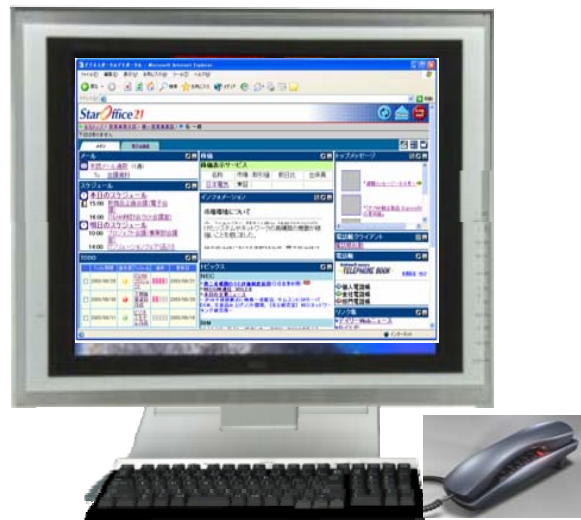
ソフトフォン
(DtermSP30)

ボイスメール
(UnifiedStar Excellents)

Web会議アプリケーション
(コミュニケーションドア)



各種端末でアプリケーションが共通に利用可能、
更に、端末全てを個人番号(単一の番号)で運用



PC



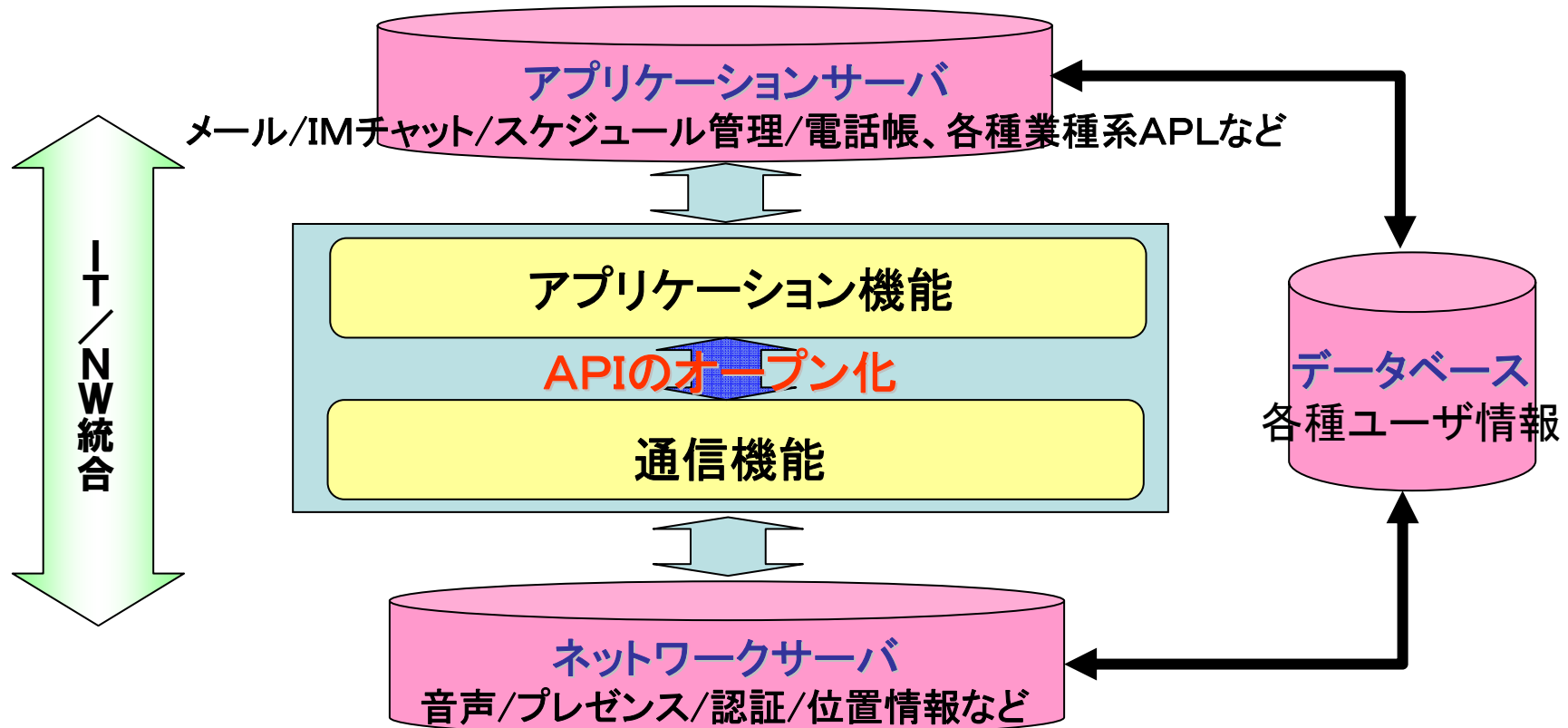
ディスプレイフォン



ブラウザフォン

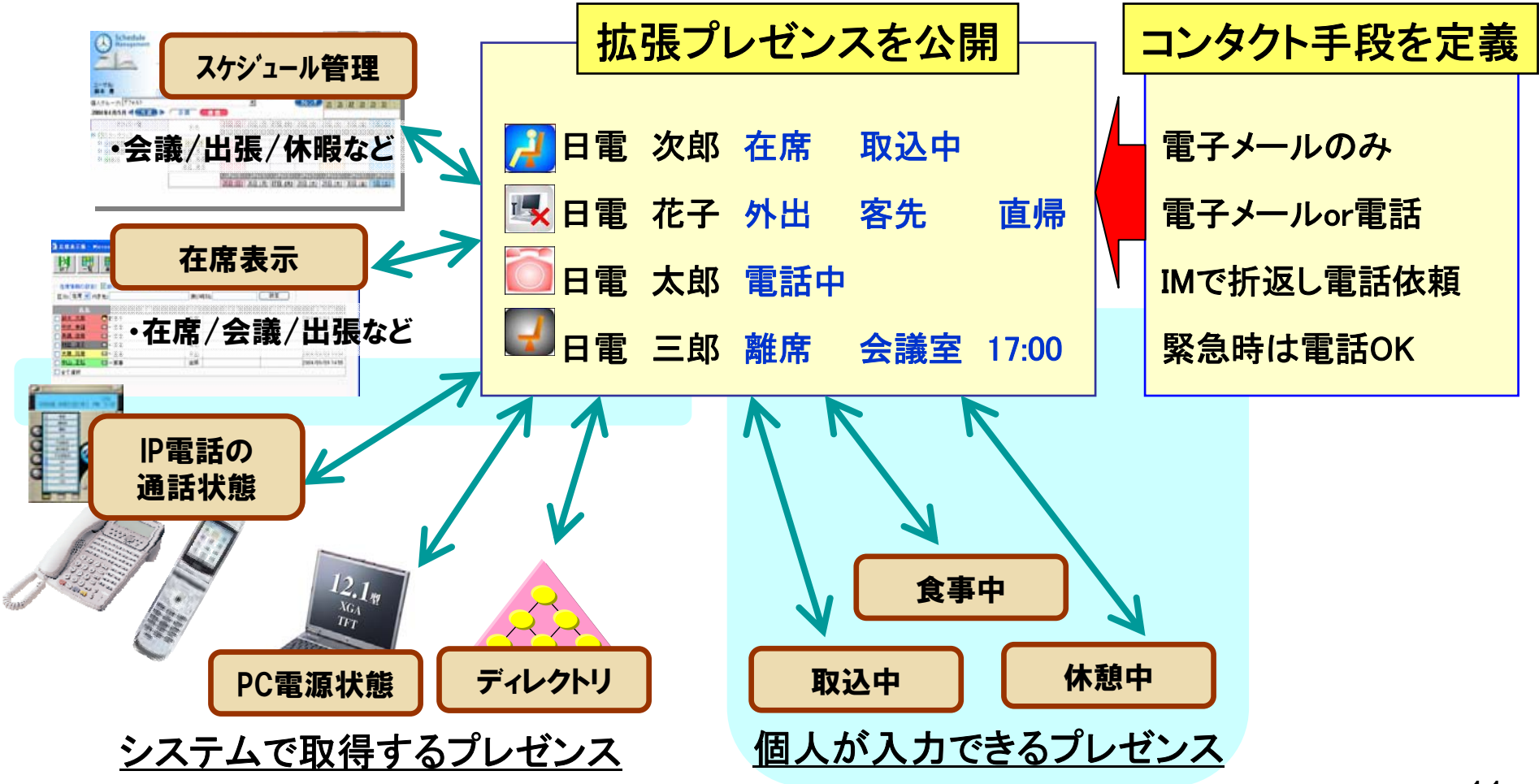
ネットワーク／アプリケーションサーバの連携

IT/ネットワーク統合アプリケーションを活用し、
コミュニケーションを向上
(業務効率化、知的生産性向上、サービス品質向上)を実現



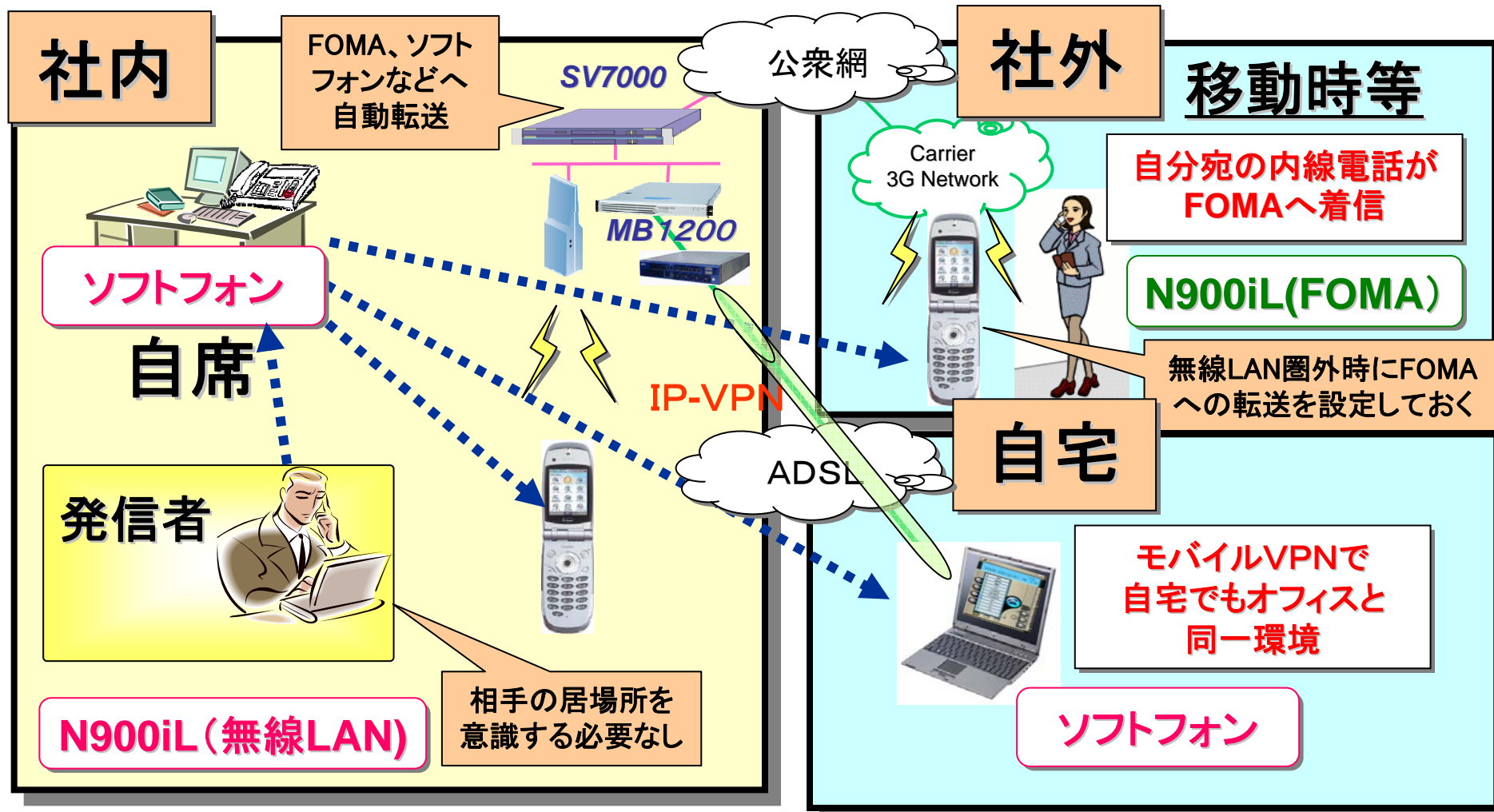
ワンクリックで相手の状態(プレゼンス)を把握

プレゼンス情報の提供基盤を整備し、コンタクト手段選択を飛躍的に効率化
 ●必要な時に、適切な人へ、適切な手段でコンタクトが可能



プレゼンス情報に応じて相手の居る所へ自動転送し、 社内／社外シームレス通信サービスを実現

通信相手のプレゼンスに応じて相手が社内外のどこに居るかを意識せず、
個人内線番号で通信が可能



電子電話帳のクリックにより、煩雑な発信操作からの開放

簡易メッセージ送受信、電子電話帳連携など、豊富な機能を持つソフト電話端末により、どの様な番号体系へも柔軟に対応可能

簡易メッセージ送信画面

簡易メッセージ受信画面



ホワイトボード共有画面

アプリケーション共有画面

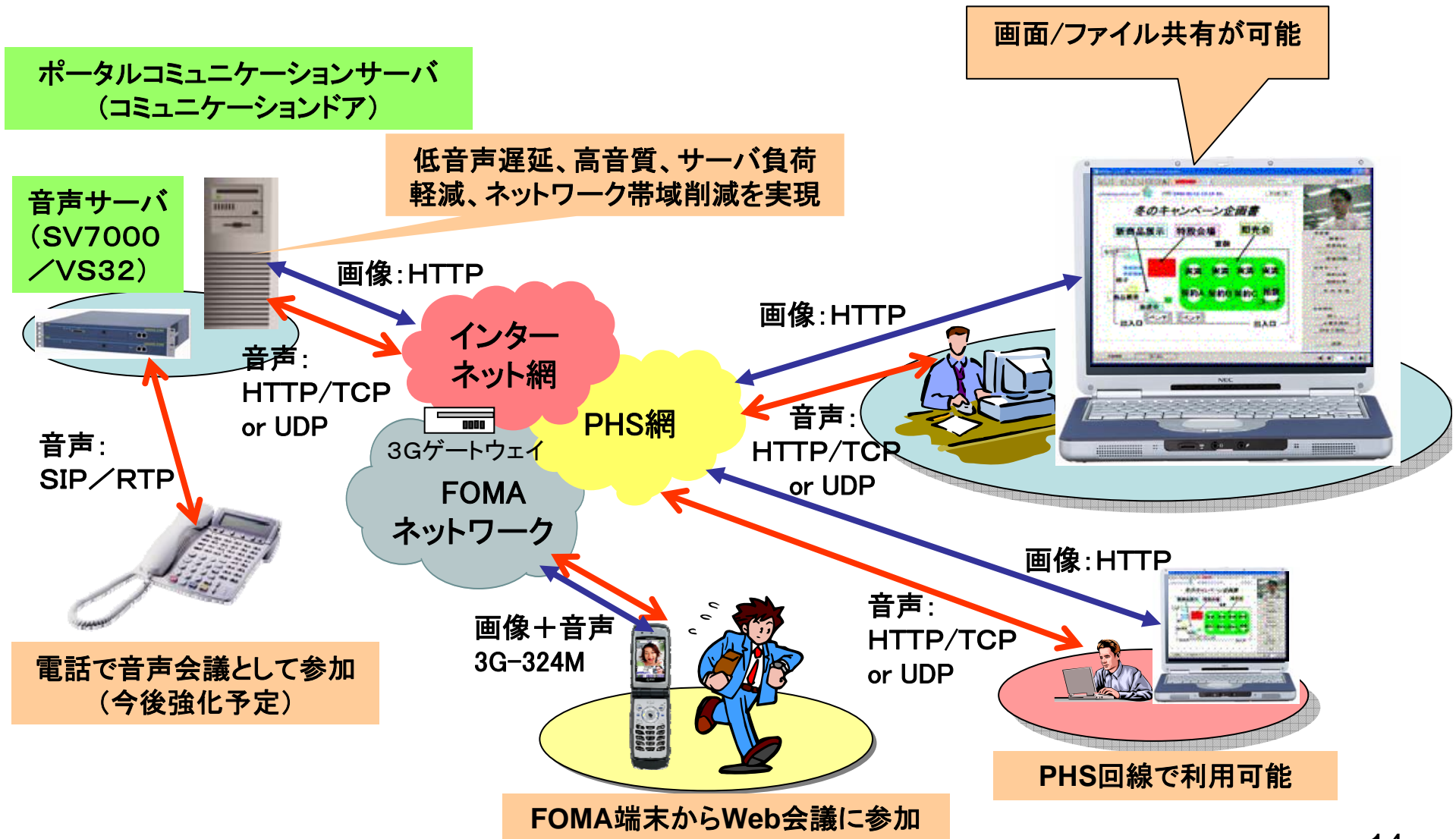
電子電話帳との連携

発着信履歴パネル

発着	時間	電話番号	通話時間	録音	通話メモ
着	08/28 17:50	3945	00:05:30		
着	08/28 16:30	3321	00:02:05	*	XXX様から〇〇依頼
着	08/28 15:00	3321			
着	08/28 13:15	3101	00:00:55	*	XXX様調査結果報告(完了)
着	08/28 11:37	3125	00:01:30	*	XXX様から問い合わせ(調査中)
着	08/28 11:00	3000			
着	08/28 10:45	3504			

ビデオ会議パネル

様々なアクセス環境、端末により、手軽にどこからでも Web会議などのコミュニケーションが可能



3、ユビキタス時代の企業通信サービスの要求条件

■どこでも、いつでも、どんな環境でも使える通信サービス

- ✓ 社内でも、社外でも、移動中でも、変わりなく通信サービスが利用できる。

例) 携帯電話／無線LANデュアル端末による社内／社外シームレス通信

- ✓ 電話番号がわからなくても、検索し簡単に電話が掛けられる。

例) 電子電話帳のクリックによる発番

- ✓ 相手のプレゼンス情報に応じて、相手のいるところに自動的に接続できる。

例) プレゼンス情報による自動転送

- ✓ どこにいても、空間／情報を共有し業務を効率化できる。

例) Web会議、モバイル対応Web会議

- ✓ どこからでも迅速に、高品質な顧客対応ができる。

例) IPコンタクトセンター

3、ユビキタス時代の企業通信サービスの要求条件

企業系での番号体系については、下記の様なニーズが顕在化してきている

- ✓ 物理番号から個人番号にシフトしている。
これまでは所属部門、役職や部屋番号といった組織に由来する物理番号が主に使われていたが、社員番号のような入社してから不変の個人番号が使われることが増えてきている。
- ✓ 電話番号とIPアドレスなどとの親和性が必要になってくる。
複数の通信サービスを利用したアクセス環境を提供するために、個人の保有する各種電話番号の関連付けが必要となる。
- ✓ 電話番号が個人情報の一部になる。それに対するセキュリティ。
個人番号が使われると、個人番号と関係付けられる様々な個人情報の不正入手が可能となるため、アクセス認証などの各種セキュリティ対策が重要になる。